

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

素 材	消 費 材 料	作 業 く ず	健 康 保 険 料
電 力 料	製 造	第 / 工 程 製 造	第 2 工 程 製 造
製 造 間 接 費	製 品	/ 級 製 品	2 級 製 品
第 / 工 程 半 製 品	売 上 原 価	材 料 消 費 価 格 差 異	工 場
本 社	現 金	当 座 預 金	売 掛 金
健康保険料預り金	売 上	雑 益	雑 損

- (1) 単純総合原価計算を採用している神埼工業株式会社は、月末に健康保険料の事業主負担分 ¥165,000 を計上した。
- (2) 伊万里製作所の素材に関する資料は次のとおりであった。よって、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を消費材料勘定から材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材の予定価格は @¥1,320 であり、実際消費高の計算は総平均法によっている。

資 料

前月繰越高	1,600個	@¥1,300	当月消費数量	3,800個
当月仕入高	3,200個	@¥1,360		

- (3) 個別原価計算を採用している唐津製作所は、次の製品を受注先に発送した。よって、売上高および売上原価を計上した。

	売上高 (掛け)	製造原価
A 製品 (製造指図書 # 505)	¥348,000	¥268,000
B 製品 (製造指図書 # 506)	¥317,000	¥244,000

- (4) 作業くずを ¥3,500 で売却し、現金を受け取った。なお、この作業くずは発生額がわずかなため製造原価からさし引かなかった。
- (5) 工程別総合原価計算を採用している佐賀工業株式会社は、月末にあたり、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、第 / 工程の完成品はすべて第2工程 (最終工程) に投入している。
- 第 / 工程 ¥1,550,000 第2工程 ¥2,140,000

- (6) 工場会計が独立している鹿島工業株式会社の本社は、当月分の電力料 ¥196,000 (うち、工場分 ¥125,000) を小切手を振り出して支払った。(本社の仕訳)

- (7) 等級別総合原価計算を採用している杵島製作所において、1級製品500個と2級製品600個が完成した。ただし、この完成品の総合原価は ¥2,546,000 であり、等価係数は次の各製品 / 個あたりの重量を基準としている。

1級製品	400g	2級製品	300g
------	------	------	------

2 鹿島製作所は、個別原価計算を採用しており、X製品 (製造指図書 # 1) と Y製品 (製造指図書 # 2) を製造している。なお、直接作業時間を配賦基準として、製造間接費を予定配賦している。また、賃金の消費高の計算には、作業時間 / 時間につき ¥580 の予定賃率を用いている。

下記の資料から、

- (1) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (2) 第 / 製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。
- (3) X製品 (製造指図書 # 1) の原価計算表を完成しなさい。

資 料

- a. 月初仕掛品 X製品 (製造指図書 # 1) ¥1,202,000 (原価計算表に記入済み)
- b. 当月直接材料費 X製品 (製造指図書 # 1) ¥350,000 Y製品 (製造指図書 # 2) ¥380,000
- c. 年間製造間接費予定額・年間予定直接作業時間

	第 / 製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥ 6,900,000	¥ 4,400,000
年間予定直接作業時間	15,000時間	10,000時間

- d. 製造部門の当月直接作業時間

	合 計	第 / 製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書 # 1	1,450時間	800時間
	製造指図書 # 2	1,000時間	600時間

- e. 補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第 / 製造部門	第2製造部門	動力部門	工場事務部門
動力部門費	動力消費量 (kW数×運転時間)	40kW×100時間	30kW×100時間	—	5kW×10時間
工場事務部門費	従業員数	55人	30人	5人	10人

- f. 当月完成品数量 X製品 (製造指図書 # 1) 100個

3 (1) 次の各文の□のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

a. 原価計算のおもな目的には、財務諸表の作成に必要な資料を提供すること、製品の「ア」の決定に必要な資料を提供すること、「イ」に必要な資料を提供すること、利益計画に必要な資料を提供することなどがある。

b. 固定費とは、「ウ」の変動にかかわらず、一定期間の発生総額が一定している原価要素をいい、たとえば、減価償却費・「エ」などがある。

《語群》

- | | | | |
|--------|---------|--------|---------|
| 1. 保険料 | 2. 賃金 | 3. 操業度 | 4. 会計期間 |
| 5. 仕入先 | 6. 販売価格 | 7. 生産力 | 8. 原価管理 |

(2) 単純総合原価計算を採用している杵島製作所の次の資料に基づき、月末仕掛品原価と完成品単位原価を求めなさい。なお、素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。また、月末仕掛品の評価方法は先入先出法により、正常減損は工程の終点で発生しており、正常減損費は完成品にすべて負担させる。

[資料]

a. 生産データ

月初仕掛品 400kg (50%)

当月投入 2,700kg

合計 3,100kg

月末仕掛品 200kg (50%)

正常減損 20kg (終点発生)

完成品 2,880kg

() 内の数字は加工進捗度をあらわす。

b. 原価データ

月初仕掛品原価

素材費 ¥ 433,000

加工費 308,000

当月製造費用

素材費 ¥ 4,050,000

加工費 4,004,000

(3) 大町製作所における下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期労務費 b. 当期経費

[資料]

①賃金 当期予定消費高 ¥ □
 前期未払高 ¥123,000 当期支払高 ¥4,720,000
 当期未払高 ¥165,000
 予定賃率を用いており、賃率差異勘定 ¥156,000 (貸方残高) がある。

②給料 当期消費高 ¥684,000

③外注加工賃 前期前払高 ¥35,000 当期支払高 ¥468,000

当期前払高 ¥24,000

④電力料 当期支払高 ¥230,000 当期測定高 ¥270,000

⑤減価償却費 当期消費高 ¥378,000

4 鳥栖工業株式会社は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。下記の資料によって、次の問いに答えなさい。

(1) /月中の取引の仕訳を示しなさい。

(2) 賃金勘定に必要な記入をおこない、締め切ちなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

(3) 組別総合原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は次のとおりである。

素材 1,500個 @¥400 ¥600,000

工場消耗品 200個 @¥130 ¥26,000

仕掛品 A組 ¥265,000(うち、素材費 ¥178,000 加工費 ¥87,000)

B組 ¥121,000(うち、素材費 ¥86,000 加工費 ¥35,000)

賃金(未払高) ¥130,000

ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥750 の予定賃率を用いている。

iv 素材は製造着手のときに投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

v 月末仕掛品原価の計算は、平均法による。

取引

/月 5日 素材を次のとおり消費した。

A組 1,400個

6日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素材 2,400個 @¥420 ¥1,008,000

工場消耗品 500個 @¥130 ¥65,000

8日 素材を次のとおり消費した。

B組 1,300個

21日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額 ¥1,230,000

うち、控除額 所得税 ¥50,000 健康保険料 ¥80,000

25日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

外注加工賃 ¥170,000 電力料 ¥125,000

保険料 ¥12,000 雑費 ¥25,000

31日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は300個であった。よって、消費高を計上した。(組間接費)

② 当月の賃金予定消費高を計上した(消費賃金勘定を用いている)。

A組 840時間 B組 660時間 間接作業 260時間

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥80,000 を計上した。

④ 当月の外注加工賃について、次のとおり消費高を計上した。

A組 ¥150,000 B組 ¥18,000

⑤ 当月の間接経費について、次のとおり消費高を計上した。

電力料 ¥84,000 保険料 ¥12,000

減価償却費 ¥130,000 雑費 ¥27,000

⑥ 当月の賃金実際消費高は ¥1,290,000 であった。

⑦ 組間接費 ¥580,000 を次の割合によって配賦した。

A組 60% B組 40%

⑧ 当月の製造数量について、次の資料を得た。

	完成品数量	月末仕掛品数量
A組	1,500個	300個(加工進捗度40%)
B組	1,000個	400個(加工進捗度50%)

⑨ 賃金の予定賃率による消費高と実際消費高との差額を賃率差異勘定に振り替えた。

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

受験番号	①

2

(1)

部 門 費 振 替 表

直接配賦法

平成〇年/月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部 門 費 計		1,109,000	505,000	379,000	140,000	85,000
動 力 部 門 費	動力消費量 (kW数×運転時間)					
工場事務部門費	従 業 員 数					
配 賦 額 計						
製造部門費合計						

(2)

借 方	貸 方

(3)

製造指図書# /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
630,000	319,000	第1	550	460	253,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	100個
						製品単価	¥

3

(1)

ア		イ		ウ		エ	
---	--	---	--	---	--	---	--

(2)

月末仕掛品原価 ¥	完成品単位原価 @¥
-----------	------------

(3)

a	当期労務費 ¥	b	当期経費 ¥
---	---------	---	--------

受験番号	②	③

4

(1)

	借	方	貸	方
/月5日				
6日				
8日				
2/日				
25日				
3/日	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

受験番号

④(1)

4

(2)

賃

金

	1/1 前月繰越	130,000

(3)

組別総合原価計算表

平成〇年/月分

摘	要	A	組	B	組
組	直接費	素	材	費	
		加	工	費	
組	間接費	加	工	費	
当	月	製	造	費	用
月	初仕掛品原価	素	材	費	178,000
		加	工	費	87,000
	計				
月	末仕掛品原価	素	材	費	123,000
		加	工	費	130,000
完	成	品	原	価	
完	成	品	数	量	1,500個
製	品	単	価	¥	¥

受験番号

④(2)(3)

総得点

平成 26 年 度
第 58 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算)

採 点 基 準

(平成26年12月14日施行)

1

(2)

貸		金	
1/21 諸 口	1,230,000	1/1 前月繰越	130,000
31 次月繰越	190,000	31 消費貸金	1,290,000 ※
	1,420,000		1,420,000

(3)

組別総合原価計算表
平成〇年/月分

摘 要	A 組	B 組
組 直 接 費		
素 材 費	560,000	544,000
加 工 費	780,000	513,000
組 間 接 費		
加 工 費	348,000	※ 232,000
当 月 製 造 費 用	1,688,000	1,289,000
月初仕掛品原価	178,000	86,000
素 材 費		
加 工 費	87,000	35,000
計	1,953,000	1,410,000
月末仕掛品原価	123,000	180,000
素 材 費		
加 工 費	※ 90,000	130,000
完 成 品 原 価	1,740,000	1,100,000
完 成 品 数 量	1,500個	1,000個
製 品 単 価	¥ 1,160	¥ ※ 1,100

	借 方	貸 方
(1)	製 造 165,000	健 康 保 險 料 165,000
(2)	材料消費価格差異 76,000	消 費 材 料 76,000
(3)	売 掛 金 665,000 売 上 原 価 512,000	売 上 品 665,000 製 品 512,000
(4)	現 金 3,500	雑 益 3,500
(5)	第 2 工 程 製 造 1,550,000 製 品 2,140,000	第 1 工 程 製 造 1,550,000 第 2 工 程 製 造 2,140,000
(6)	電 力 料 場 71,000 工 場 125,000	当 座 預 金 196,000
(7)	1 級 製 品 1,340,000 2 級 製 品 1,206,000	製 造 2,546,000

受験番号	④(2)(3)	総得点
	4点×4=16点	100点

受験番号	㊦
	4点×7=28点

2

(1)

部門費振替表

直接配賦法

平成○年/月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費計		1,109,000	505,000	379,000	140,000	85,000
動力部門費	動力消費量 (kW数×運転時間)	140,000	※ 80,000	60,000		
工場事務部門費	従業員数	85,000	55,000	※ 30,000		
配賦額計		225,000	135,000	90,000		
製造部門費合計		1,109,000	640,000	469,000		

(2)

借方		貸方	
第1製造部門費	4,000	製造部門費配賦差異	4,000
製造部門費配賦差異	7,000	第2製造部門費	7,000

(3)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
630,000	319,000	第1	550	460	253,000	直接材料費	980,000
350,000	※ 841,000	第1	800	460	368,000	直接労務費	1,160,000
980,000	1,160,000	※ 第2	650	440	286,000	製造間接費	907,000
					907,000	製造原価	3,047,000
						完成品数量	100個
						製品単価	¥ 30,470 ◎

3

(1)

ア	6	イ	8	ウ	3	エ	1
---	---	---	---	---	---	---	---

(2)

月末仕掛品原価	¥ 443,000	完成品単位原価	@ ¥ 2,900
---------	-----------	---------	-----------

(3)

a	当期労務費	¥ 5,602,000	b	当期経費	¥ 1,127,000
---	-------	-------------	---	------	-------------

4

(1)

		借 方		貸 方	
1/月5日		A 組 製 造	560,000	素 材	560,000
6日		素 材 工 場 消 耗 品	1,008,000 65,000	買 掛 金	1,073,000
8日		B 組 製 造	544,000	素 材	544,000
21日		賃 金	1,230,000	所 得 税 預 り 金 健 康 保 険 料 預 り 金 当 座 預 金	50,000 80,000 1,100,000
25日		外 注 加 工 賃 電 力 料 保 險 料 雑 費	170,000 125,000 12,000 25,000	当 座 預 金	332,000
3/日	①	組 間 接 費	52,000	工 場 消 耗 品	52,000
	②	A 組 製 造 B 組 製 造 組 間 接 費	630,000 495,000 195,000	消 費 賃 金	1,320,000
	③	組 間 接 費	80,000	健 康 保 険 料	80,000
	④	A 組 製 造 B 組 製 造	150,000 18,000	外 注 加 工 賃	168,000
	⑤	組 間 接 費	253,000	電 力 料 保 險 料 減 価 償 却 費 雑 費	84,000 12,000 130,000 27,000
	⑥	消 費 賃 金	1,290,000	賃 金	1,290,000
	⑦	A 組 製 造 B 組 製 造	348,000 232,000	組 間 接 費	580,000
	⑧	A 組 製 品 B 組 製 品	1,740,000 1,100,000	A 組 製 造 B 組 製 造	1,740,000 1,100,000
	⑨	消 費 賃 金	30,000	賃 率 差 異	30,000

受験番号	②	③
	※ 3点×5=15点 ◎ 1点×1=1点	2点×8=16点

受験番号	④(1)
	4点×6=24点